

分野	51	環境共生	通番 119
施策	511	西山の整備	
5年後の目標		市民・企業などの協働によって西山が整備され、市域の森林の3分の1以上が健全な状態で維持管理されている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	西山における森林保全活動の 推進・啓発事業		会計	款	項	目	1,500,000	農林振興課
			一般	6	2	1		
	事業の概要							
	改定した西山森林整備構想に基づき、具体的な森林整備方針を定め、産官学民連携の組織である西山森林整備推進協議会と連携して、ボランティア運動と森林保全活動の推進と啓発を促進します。							

令和元年度の取組						
D (取組)	指標	森林ボランティア団体数				単位 団体
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1 2
	21(平成26年度)	目標	22	22	23	23 24
		実績	22	23	23	23
	・「西山森林整備構想」に基づき、西山森林整備推進協議会と連携して、京都モデルフォレスト運動による森づくりへの支援や、自然環境調査、環境教育事業など、関係団体や関係機関が実施する西山での活動への支援を行いました。 ・台風被害及び新型コロナウイルス拡大防止に伴い、開催を予定していたボランティア行事及びボランティア養成講座を中止としました。				京都モデルフォレスト運動 	

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和元年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド
		—		—
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・その他イベント出店等の啓発事業を継続的に実施することで、森林整備活動に関心を持つ人と既存の団体との関係性の構築することができましたが、結果として新規の参画団体の活動開始には至らず、団体数の増減はありませんでした。
課題等	・ボランティア団体において、会員の高齢化と後継者不足が課題となっています。 ・新規参画団体の増加を促す取り組みを行う必要があります。			

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 1: 計画通りに進めることが適当 対応策等 ・協議会と連携し、広くHPや広報誌で周知を行い、ボランティア養成講座やイベント出展などの啓発事業を通じて、多くの人が各団体への新規加入及び新規団体の設立を促すよう森林保全活動の魅力を発信し、活動を継続していくための支援を行います。

分野	51	環境共生	通番 120
施策	511	西山の整備	
5年後の目標		市民・企業などの協働によって西山が整備され、市域の森林の3分の1以上が健全な状態で維持管理されている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	西山における森林整備推進事業		会計	款	項	目	16,199,174	農林振興課
			一般	6	2	1		
			事業の概要					
	西山の森林機能を維持・回復させるとともに、生物の多様性を保持するため、西山森林整備構想を基本として環境面や公益的観点に配慮した整備を継続的かつ適正に実施します。							

令和元年度の取組						
D (取組)	指標	西山森林整備面積(累計)				単位 ha
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1 2
	261.68 (平成26年度)	目標	280.0	288.0	296.0	304.0 312.0
		実績	282.0	295.0	301.1	306.7
	・長岡京市森林組合に業務委託を行い、森林整備を合計5.55ha実施しました。 ・人工林については、1.35haの間伐を実施し、間伐した材を活用するため93mの施業路を開設しました。二次林については、2.83haの改良を行いました。竹林については、拡大する竹をライン状に伐採し最前線を押し戻す線状の整備と点在する竹の除伐を1.37ha行うとともに、過去の線状の整備地で新たに発生したタケノコ等を伐採する維持管理を実施しました。また、平成30年の9月に発生した台風起因する風倒木の伐倒処理を98.8㎡実施しました。 ・ふるさと納税を活用し、カブトムシやオオムラサキなど多様な生き物が暮らす森を再生する「京都西山再生プロジェクト」では、既存の植樹地の下刈り及び歩道整備を行うとともに、水辺の森再生事業として溪畔林の風倒木処理を実施しました。				拡大竹林線状の整備 整備区域 	

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和元年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		西山の森林整備面積・整備率	これまで継続的に進めてきた森林整備活動により、西山の有する多面的な機能が徐々に回復しつつある。	209
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上) 達成状況	・平成30年9月の台風により西山全体で大きな被害が発生しましたが、平成27年4月に改定された「西山森林整備構想」と併せて作成されたゾーニング資料を基本的な指針とし、風倒木の伐倒処理など災害復旧を踏まえた森林整備を進めた結果、目標を達成することができました。	
	課題等	・西山森林整備構想の整備方針に基づいた西山に相応しい整備方法を継続的に検討する必要があります。 ・森林の水源涵養機能の低下や土砂災害の危険性が増すため、拡大竹林の整備を引き続き行う必要があります。 ・森林整備の円滑な推進や資源の循環利用に資するため今後も引き続き間伐材の搬出を考慮した施業路の整備が必要です。 ・被災した森林を放置しておくことで、台風や豪雨によりさらなる被害が拡大するおそれがあります。		

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 1: 計画通りに進めることが適当 対応策等 ・西山森林整備構想を指針として、台風等による被害が発生した森林において災害復旧を踏まえた森林整備を実施します。 ・拡大竹林対策として、点在する放置竹林の除伐と、過去の整備地の維持管理を行います。 ・人工林の間伐と併せて施業路の開設を行うことで、材の搬出と利用を推進します。 ・森林環境税やふるさと納税など様々な財源を活用することで、森林整備費の確保を目指します。

分野	51	環境共生	通番 121
施策	511	西山の整備	
5年後の目標		市民・企業などの協働によって西山が整備され、市域の森林の3分の1以上が健全な状態で維持管理されている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	木竹資源の利活用事業		会計	款	項	目	—	農林振興課
			—	—	—	—		
			事業の概要					
市内で伐採された木材を公共建築物や内装材、調度品、薪などへ多種多様な利用を図るとともに、竹林整備により発生した竹材を竹粉や竹チップとして有効利用を進め、資源循環利用の仕組みづくりを推進します。								

令和元年度の取組						
D (取組)	指標	竹粉・竹チップの活用量(累計)				単位 m ³
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1
	平成27年度 新規事業	目標	36	52	68	84
		実績	64.3	74.1	74.1	74.1
	・防草材としての竹チップの活用実績はありませんでした。 ・木材利用の実績として、令和元年度は広報板や京都西山再生プロジェクトの内部板及びネームプレート、京都乙訓ロータリークラブの記念コースター、公共施設等に設置するベンチ材10基分を納品しました。				広報板 	

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和元年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—		—	—
	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%～100%程度)	達成状況	・平成26年度に補助金を受けて竹チップパーを導入した京都中央農業協同組合と連携し、伐採竹のチップ化を推進しましたが、結果として新規の導入には至りませんでした。 ・森林整備で発生した間伐材を森林環境税などの財源を活用し、市内広報板や備品等の原材料などに利用することができました。	
	課題等	・竹チップの防草材としての品質や効果の継続性、費用等に課題があることから、新たな敷設が困難な状況です。 ・木竹材の利活用を進めるための財源の確保が課題となっています。			

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 1:計画通りに進めることが適当 対応策等 ・竹チップや竹粉の他に、竹材の新たな資源としての利活用方法を今後も検討していく必要があります。 ・公共施設の調度品等に対し、市内産材の利用を推進します。